

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		研究科の専攻に係る課程の変更							
フリガナ 設置者		カクヨウホジシヨウ ショウナンリアクケン学 校法人 湘南ふれあい学園							
フリガナ 大学の名称		ショウナンリョウカクイフクダクイケン 湘南医療大学大学院 (Graduate School of Shonan University of Medical Sciences)							
大学の位置		神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号							
大学の目的		湘南医療大学は、教育基本法及び学校教育法と「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」の理念に基づき、高度な知識技術とともに、豊かな人間性を育み、創造的かつ実践的な教育研究を通じて、地域社会に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的		湘南医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻（博士後期課程）は、近年の急速な技術革新、社会経済の高度化・複雑化、国際化、情報化等の変化で生じた保健医療学に関する課題に対し、基礎的、先駆的な学術研究を推進して培われた、創造性・多様性に満ちた教育・研究者並びに保健・医療分野において果敢に実践できる管理・指導者となる有能な人材を養成し、併せて教育研究を通じた成果及び情報を社会に貢献することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる修士課程及び学部】 保健医療学研究科 修士課程 保健医療学専攻 保健医療学部 看護学科 リハビリテーション学科
	保健医療学研究科 〔Graduate School of Health Sciences〕 保健医療学専攻（D） 〔Health Science Curriculum (Doctor's Programs)〕	3年	3人	—年次人	9人	博士（看護学） (Doctor of Nursing) 博士（リハビリテーション学） (Doctor of Rehabilitation)	令和6年4月 第1年次	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号	
	計		3	—	9				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	保健医療学研究科保健医療学専攻 (博士後期課程)	12科目	7科目	科目	19科目	22単位			
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
				教授	准教授	講師	助教	計	
	新設分	保健医療学研究科保健医療学専攻（博士後期課程）	22人 (22)	5人 (5)	0人 (0)	1人 (1)	28人 (28)	0人 (0)	6人 (6)
		計	22人 (22)	5人 (5)	0人 (0)	1人 (1)	28人 (28)	0人 (0)	6人 (6)
	既設分	保健医療学研究科保健医療学専攻（修士課程）	29人 (29)	12人 (12)	5人 (5)	6人 (6)	52人 (52)	0人 (0)	43人 (43)
		計	29人 (29)	12人 (12)	5人 (5)	6人 (6)	52人 (52)	0人 (0)	43人 (43)
	合計		51人 (51)	17人 (17)	5人 (5)	7人 (7)	80人 (80)	0人 (0)	49人 (49)

教員以外の職員の概要	職 種			専 任		兼 任		計		大学全体					
	事 務 職 員			39 (39)		3 (3)		42 (42)							
	技 術 職 員			0 (0)		0 (0)		0 (0)							
	図 書 館 専 門 職 員			1 (1)		6 (6)		7 (7)							
	そ の 他 の 職 員			0 (0)		4 (4)		4 (4)							
	計			40 (40)		13 (13)		53 (53)							
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		借用面積：計 28,688.76㎡（内訳①校 舎敷地6,629.41㎡、② 校舎敷地20,806.80㎡、 ③運動場用地1,252.57 ㎡）借用期間：①平 成25年7月から27年9か 月令和3年4月から30年 ③平成27年4月から20年				
	校 舎 敷 地		65,203.23 ㎡		0 ㎡		0 ㎡		65,203.23 ㎡						
	運 動 場 用 地		1,252.57 ㎡		0 ㎡		0 ㎡		1,252.36 ㎡						
	小 計		66,455.80 ㎡		0 ㎡		0 ㎡		66,455.80 ㎡						
	そ の 他		0 ㎡		0 ㎡		0 ㎡		0 ㎡						
	合 計		66,455.80 ㎡		0 ㎡		0 ㎡		66,455.80 ㎡						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		借用面積：計 12,723.09㎡（内訳① 1,709.63㎡②1,026.05 ㎡③11,013.46㎡）借用 期間：①平成27年4月 から20年②平成31年4 月から20年③令和3年4 月から30年				
			35,607.98 ㎡ (35,607.98 ㎡)		0 ㎡ (0 ㎡)		0 ㎡ (0 ㎡)		35,607.98 ㎡ (35,607.98 ㎡)						
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体 ※うち2室は講 義室と兼用			
		38 室		32 室		32 室		※ 3 室 (補助職員 人)		0 室 (補助職員 人)					
専 任 教 員 研 究 室				新設学部等の名称				室 数							
				保健医療学研究科 保健医療学専攻（博士後期課程）				95 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		研究科単体での 特定不能なた め、大学全体の 数
			保健医療学研究 科保健医療学専攻		20,854 [956] 20,854 [956]		335 [48] 335 [49]		13 [3] (13 [3])		616 (616)		21,360 (21,360)		
	計		19,043 [1,034] 19,043 [1,035]		323 [48] 323 [49]		13 [3] (13 [3])		616 (616)		21,360 (21,360)		58 (58)		
図書館			面積			閲覧席座数			収 納 可 能 冊 数			大学全体			
			1,196.48 ㎡			386 席			47,140 冊						
体育館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要									
			1,825.25 ㎡			－									
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	教員1人当り研究費等 は、研究科単位での算 出不能なため、学部と の合計。 共同研究費等は大学全 体。 図書及び設備購入費は 研究科全体。				
		教員1人当り研究費等			300千円	300千円	300千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円					
		共 同 研 究 費 等			1,000千円	1,000千円	1,000千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円					
		図 書 購 入 費		300千円	200千円	200千円	200千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円					
		設 備 購 入 費		2,000千円	100千円	100千円	100千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円					
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※学生納付金は上か ら、保健医療学研究科 保健医療学専攻、保健 医療学研究科保健医療 学専攻（助産師国家試 験受験資格取得者）						
	保健医療学研究科保 健医療学専攻（修 士課程）		1,280千円	980千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円							
			1,780千円	1,480千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円							
	保健医療学研究科保 健医療学専攻（博 士後期課程）		1,100千円	800千円	800千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円							
	学生納付金以外の維持方法の概要				寄附金収入、補助金収入、雑収入等										

既設大学等の状況	大 学 の 名 称	湘南医療大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
		年	人	年次人	人		倍			
	大学院保健医療学研究科									令和4年度入学定員増（60人）（保健医療学部看護学科）
	保健医療学専攻（修士課程）	2	12	—	24	修士（保健医療学）	0.95	平成31年度	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号	
	保健医療学部	4	220	—	760	—	0.99			
	看護学科	4	140	—	440	学士（看護学）	0.98	平成27年度	神奈川県横浜市中区山手町27 神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号	
	リハビリテーション学科	4	80	—	320	—	0.99			
	理学療法学専攻	4	40	—	160	学士（理学療法学）	1.02	平成27年度	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号	
	作業療法学専攻	4	40	—	160	学士（作業療法学）	0.96	平成27年度	同上	
	薬学部									
	医療薬学科	6	130	—	390	学士（薬学）	0.38	令和3年度	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番10号	令和3年度開設3年目（薬学部医療薬学科）
附属施設の概要		名称：湘南医療大学臨床医学研究所 目的：様々な分野の疾病の臨床研究並びに臨床医学教育システムに関する調査研究 所在地：神奈川県茅ヶ崎市西久保大字町122番地1 他（湘南東部総合病院西館1階） 設置年月：平成30年4月 規模等：面積176.38㎡ 名称：湘南医療大学薬学部附属薬草園 目的：薬学部における教育・研究の資料とする 所在地：神奈川県横浜市戸塚区上品濃16番48号 他（湘南医療大学敷地内） 設置年月：令和4年3月 規模等：面積400㎡								

学校法人湘南ふれあい学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
湘南医療大学				湘南医療大学				
保健医療学部看護学科	140	—	560	保健医療学部看護学科	140	—	560	
保健医療学部 リハビリテーション学科				保健医療学部 リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	—	160	理学療法学専攻	40	—	160	
作業療法学専攻	40	—	160	作業療法学専攻	40	—	160	
薬学部医療薬学科(6年制)	130	—	780	薬学部医療薬学科(6年制)	130	—	780	
計	350	—	1660	計	350	—	1660	
湘南医療大学大学院				湘南医療大学大学院				
保健医療学研究科				保健医療学研究科				
保健医療学専攻(M)	12	—	24	保健医療学専攻(M)	12	—	24	
				保健医療学専攻(D)	3		9	課程変更(認可申請)
計	12	—	24	計	15	—	33	
茅ヶ崎看護専門学校				茅ヶ崎看護専門学校				
看護学科	80	—	240	看護学科	80	—	240	
計	80	—	240	計	80	—	240	
茅ヶ崎リハビリテーション専門学校				茅ヶ崎リハビリテーション専門学校				
理学療法学科	70	—	280	理学療法学科	70	—	280	
作業療法学科	30	—	120	作業療法学科	30	—	120	
言語聴覚学科	35	—	70	言語聴覚学科	35	—	70	
計	135	—	470	計	135	—	470	
湘南医療大学附属下田看護専門学校				湘南医療大学附属下田看護専門学校				
看護学科	40	—	120	看護学科	40	—	120	
計	40	—	120	計	40	—	120	
医療ビジネス観光福祉専門学校				医療ビジネス観光福祉専門学校				
医療ビジネス学科	40	—	80	医療ビジネス学科	40	—	80	
観光学科	40	—	80	観光学科	40	—	80	
介護福祉学科	35	—	70	介護福祉学科	35	—	70	
計	115	—	230	計	115	—	230	

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(大学院保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程)																	
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目		医療倫理学特論	1通	2			○								兼1		
		教育学特論	1通		2		○								兼1		
		研究特論	1通		2		○								兼1		
		保健福祉学特論	1通		2		○								兼1		
		小計（4科目）	—	2	6		—								兼4		
基礎科目		高等教育学	1通		2		○								兼1	オムニバス オムニバス・共同(一部)	
		保健医療学基盤研究	1通		2		○			1					兼1		
		保健医療学実践研究	1通		2		○			10	1						
		小計（3科目）	—		6		—			10	1				兼2		
専門科目	看護学領域科目	健康支援ケアシステム学特論	1前		2		○			3	0					オムニバス	
		健康支援ケアシステム学演習	1後		4			○		3	0					共同	
		地域生活ケアシステム学特論	1前		2		○			4	2					オムニバス	
		地域生活ケアシステム学演習	1後		4			○		4	2					共同	
		生涯発達ケアシステム学特論	1前		2		○			3			1			オムニバス	
		生涯発達ケアシステム学演習	1後		4			○		3			1			共同	
		小計（6科目）	—		18		—			10	2		1		兼0		
	リハビリテーション学領域科目	地域生活支援学特論	1前		2		○			5						オムニバス	
		地域生活支援学演習	1後		4				○	5						オムニバス	
		身体機能支援医療学特論	1前		2		○			4	2					オムニバス・共同(一部)	
		身体機能支援医療学演習	1後		4				○	4	2					オムニバス・共同(一部)	
		小計（4科目）	—		12		—			8	2				兼0		
	特別研究科目	看護学領域科目	看護学特別研究	1～3		10				○		7	1				共同(一部)
		リハビリテーション学領域科目	リハビリテーション学特別研究	1～3		10				○		7	2				共同(一部)
			小計（2科目）	—		20		—			15	4				兼0	
	合計（19科目）			—	2	50				—	22	5		1		兼6	
	学位又は称号		博士（看護学） 博士（リハビリテーション学）			学位又は学科の分野					保健衛生学関係（看護学関係） 保健衛生学関係（リハビリテーション関係）						
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
【博士（看護学）】 共通科目から4単位（必修科目2単位、選択科目2単位以上）、基礎科目から2単位以上、専門科目内「看護学領域科目」から6単位以上（選択した特別研究に関わる研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上）及び特別研究科目10単位を履修し、合計22単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する博士論文審査及び最終試験に合格すること。 【博士（リハビリテーション学）】 共通科目から4単位（必修科目2単位、選択科目2単位以上）、基礎科目から2単位以上、専門科目内「リハビリテーション学領域科目」から6単位以上（選択した特別研究に関わる研究領域の特論科目2単位以上・演習科目4単位以上）及び特別研究科目10単位を履修し、合計22単位以上を取得するとともに、必要な研究指導を受けた上で、本研究科が実施する博士論文審査及び最終試験に合格すること。										1 学年の学期区分				2期			
										1 学期の授業期間				15週			
										1 時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	医療倫理学特論	医療・保健・福祉分野の研究者や専門職に対して、近年、患者・利用者等の人権尊重が強調される社会的背景から、倫理問題の発見・対応能力が求められている。そこでの能力は、個人的資質によるだけでなく、倫理指針や関連する法律による制度への社会的対応能力が必要とされている。本授業では、医療倫理学に関する学説、理論、制度などとその歴史的な背景についての講義と具体的な事例検討を通して、倫理問題への理解と実践的な対応能力を育成する。	
共通科目	教育学特論	教育学の基礎概念を理解し、実践力を身につけることを通して、多職種連携教育を実践できる力をつける。まずは教育思想、教授理論に加え、教育制度まで概観できるようにして、教育学一般への理解を深める。次に古典的な教授理論を理解した上で、近年のワークショップの実践、コミュニケーション論、そして看護・リハビリテーション教育にとっても重要な成人教育の手法を理解することとする。その上で最後に、高等教育におけるFDの動向などを把握する。	
共通科目	研究特論	全ての量的看護研究で用いる統計学を系統的に学び、自身の研究テーマ・研究目的を裏付けのための適切な統計解析手法の選択、数理的な理解、統計解析ソフトウェアでの実装まで包括的に概説する。基本的な統計解析手法をある程度の数理や仮定を含めてから深く理解し、統計手法に関する論文が読めるようになること、ソフトウェアによるデータハンドリングから実践的なデータ解析まで一通りのデータ解析ができるようになり、必要に応じて応用的な手法を取り入れることができる水準を目指す。	
共通科目	保健福祉学特論	少子高齢化の進展等に伴い、保健医療領域の支援対象者（患者・家族等）が抱える心理・社会的課題（療養する上で生じた、あるいは顕在化した様々な生活課題等）は多様化かつ複雑化してきており、保健と医療、福祉を統合した専門職・非専門職によるアプローチが求められてきている。本講義では、保健医療と社会福祉を跨いだ学際的研究の事例（質的・量的研究の事例）を通して、統合的な研究の方法について論じる。	
基礎科目	高等教育学	教育人間学の知見に基づき、医療・福祉・看護の視点から教育労働の本質を捉える。内容的には以下の5つのテーマに即して、文献講読と課題学習に取り組む。①生命の再生産と教育；教育本質論、②生命の繋がりと教育；ホリスティック教育の展開、③教育的ケア論の理論と実践、④「能力」「発達」「学習」の新しい考え方、⑤教育評価の方法と意義、⑥少子高齢化社会とデスエデュケーションの課題。	
基礎科目	保健医療学基盤研究	保健医療学の研究では、質的研究、量的研究、混合研究法が用いられている。これらの研究法に共通した研究実施法について、臨床における研究課題（CQ）の設定、倫理の問題、研究計画書の作成、質問調査を例とした実施と質管理の注意点について述べ、各自の研究テーマに沿った演習を行う。質的研究法全般を概説後、特にインタビューあるいは自由記載の文章からのテキストマイニング手法について紹介する。量的研究については、測定方法の計画と測定尺度の妥当性、信頼性、準実験的研究法を中心に学ぶ。論文の執筆法についても、質的研究、量的研究を対比してその要点を述べる。 （オムニバス方式／全15回） （ 37 古屋 博行／8回） 量的、質的研究法についてそれぞれの特徴と背景にあるパラダイムの違い、介入研究法として準実験的研究法と単一事例実験デザインに関して分析手法の基礎を、テキスト分析による概念抽出法について量的側面に軸を置いて解説する。 （ 6 片山 典子／7回） 質的研究で良く用いられるインタビュー方法および分析法について理解し、質的研究法を用いた論文の抄読により各研究手法の特徴と限界について概観する。量的研究の実証主義（仮説検定、演繹的）、質的研究の構築主義（帰納的）、混合研究のアブダクションについて解説し混合研究の位置づけ、特徴を理解する。また質的、量的研究結果の混合手法の紹介とそれぞれの手法で得られた結果の統合とその解釈例について概説し、混合研究法を用いた論文の抄読により研究法の特徴と限界について理解を深める。さらには質的研究、混合研究法による論文の質を担保するため国際的な報告のガイドラインに沿って研究結果のまとめ方や論文を抄読する際にチェックすべき要点を理解する。	オムニバス方式

基礎科目	保健医療学実践研究	保健医療学に関連する知識を包括的に修得することにより、自己の専門領域にとらわれない幅広い革新的な発想や論理的・創造的思考能力、研究能力を育成するために、看護および保健領域の学生の専門領域の基盤になる、人間の健康に関連する多領域の最新知見やケア方法を教授する。さらに、人の健康支援ケアに関する様々な領域の最新情報を得ることにより、現場における各専門職間あるいは関係機関との連携による実践的研究能力を育成する。 (オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回) (1 喜多村 健・ ② 川本 利恵子 / 共同1回) 保健医療システムの概要を解説し、科目目標及び内容について教授する。そして、保健医療領域の健康上の課題や生活の課題を広く俯瞰して捉えることの重要性について教授する。さらに、保健医療学での課題を探索する際の論理的思考の重要性、また具体的な支援方法を実践する能力の必要性について教授する。 (② 川本 利恵子 / 2回) がん患者に行われている治療法(手術療法・薬物療法など)とその影響および実践的ケアについて、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。健康障害を持つ人への支援ケアを行う上での看護上の課題について論ずる。特に、がん患者に行われている治療及びケアについて学ぶ。そして、生活を視点にした健康支援のための実践的ケアのあり方について教授する。 (23 渡部 節子 / 2回) 感染予防や治療及びケア方法について振り返り、看護を視点にした実践的ケアのあり方について教授する。また感染看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく支援の方法について論ずる。さらには感染に関する基礎知識を基盤とした予防の方法に関する実践的ケアについて、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。 (6 片山 典子 / 1回) 精神的な課題を持つ人のQOLとは、支援の方法と必要性および課題について論じる。さらに、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。 (④ 山勢 善江 / 2回) 急性期ケアに関する基礎知識を基盤とした実践的ケアについて論じる。さらに、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。急性期やクリティカルケアが必要とされる人へのケア方法と必要性を論じ、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。 (3 田邊 浩文 / 2回) 中枢神経疾患患者に行われているリハビリテーション介入方法とその効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。 (14 鶴見 隆正・ 30 増田 雄亮 / 共同1回) 回復期の脳卒中・脳損傷患者に行われているリハビリテーションの方法と効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。 (5 大森 圭貢・ 14 鶴見 隆正 / 共同1回) 高齢者の健康増進および高齢患者のリハビリテーションの方法と効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。 (17 森尾 裕志 / 1回) 心臓血管疾患患者の評価およびリハビリテーションの方法と効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。 (11 鈴木 雄介 / 1回) 高次脳機能障害を呈する中枢神経疾患患者に行われている介入方法とその効果について、具体的な実践場面を紹介し、高度専門職業人に必要な理論と方法論等について教授する。 (1 喜多村 健・ ② 川本 利恵子・ 3 田邊 浩文・ 5 大森 圭貢・ 6 片山 典子・ 11 鈴木 雄介・ 14 鶴見 隆正・ 17 森尾 裕志・ ④ 山勢 善江・ 23 渡部 節子・ 30 増田 雄亮 / 1回) これまで紹介された具体的な実践場面を各自でまず整理し、高度専門職業人に必要な理論と能力及び方法論等について討議する。また、チーム医療を目指した高度専門職業人のあり方についても討議する。	オムニバス方式・共同 (一部)
------	-----------	---	-----------------

専門科目	健康支援ケアシステム学特論	健康障害を持つ人の生活をその人の健康レベルに応じて取り戻す実践的な健康支援は主に臨床看護領域のケアの目的である。そこで、臨床看護における研究を学際的な視点から探究し、実践的研究課題について理解を深める。主に、日本国民の2人に一人が罹患するといわれているがん患者の病態と早期診断法、さらに集学的治療に伴う身体的影響についての分析法とその結果から明らかにされた障害発生の要因について解説し、障害を予防する健康支援ケアの在り方について論じる。 (オムニバス方式／全15回) (② 川本 利恵子／6回) 健康支援ケアシステムの概要を解説し、科目目標及び内容について教授する。また健康障害を持つ人の生活をレベルに応じて取り戻す実践的な健康支援ケアとそのシステム、健康障害の発生メカニズムと予防的生活の方法と基本的な生活援助ケアについて論ずる。さらには健康障害を持つ人のQOLとは何か、QOLに基づく健康支援の方法と課題について論じる。 (23 渡部 節子／3回) 感染看護分野における基本的なケアを取り上げ、臨床での感染防御に必要な基本的ケアの支援の方法の原理原則について論ずる。また感染看護などの分野で話題になっているトピックスを取り上げ、臨床での感染防御に基づく健康支援の方法と課題について論ずる。 (④ 山勢 善江／5回) 健康レベルが低下している急性期やクリティカルケアが必要とされる人や家族への健康支援ケアの方法と必要性を解説し、急性期看護学領域における理論と現状を論じる。また急性期看護学領域における理論と現状を論じる。 (② 川本 利恵子・④ 山勢 善江・23 渡部 節子／1回) 健康障害を持つ人の生活をその人の健康レベルに応じた実践的な健康支援の具体的な方法と臨床看護フィールドにおける看護実践ケアシステムや感染看護、がん看護、急性期看護などの健康支援ケアとシステムの課題を考える。	オムニバス方式
専門科目	健康支援ケアシステム学演習	臨床看護フィールドにおける最新の研究、看護実践ケアシステムやチーム医療、看護倫理などの分野で話題になっているトピックス、先端医療分野などの今日的課題を取り上げる。さらに、臨床看護フィールドでの看護実践や支援ケアの方法、実践的な健康支援システムの検討に必要な研究方法について演習を行う。人の健康支援に関する研究手法の演習を行うことによって、教育者・研究者に求められる批判力、論理性、表現力の育成を行う。さらに、学際的連携による研究手法を学ぶことによって研究能力を育成する。 (共同／全30回) (② 川本 利恵子・④ 山勢 善江・23 渡部 節子／30回) 文献レビュー、研究課題の明確化、研究方法の検討	共同

専門科目	地域生活ケアシステム学特論	地域生活ケアにかかわる理論、地域ケアシステム構築のあり方、地域活動の評価方法などの地域マネジメントを学ぶことにより、地域生活ケア活動への実践能力を修得する。地域生活の場での地域住民のエンパワメントを尊重、および対人支援能力、地域マネジメント能力、健康危機管理能力、組織管理能力の視点から、健康な地域生活支援システム展開のための方法論を解説する。さらに、地域生活支援に必要なケースマネジメント能力のおよび地域住民との協働能力などのケア能力についても論じる。 (オムニバム方式／全15回) (15 本田 芳香／3回) 地域生活支援ケアの内容とシステムの概要を解説し、健康の保持及び予防的な生活を送る上での基本的な生活援助ケアなどの本科目の目指す内容を論じる。また主体的日常生活動作能力の重要性と日常生活におけるQOLとは何か、QOLに基づく日常生活支援の方法と課題について論じる。さらには生活支援のためのケアを行う上での倫理の重要性と看護上の課題について論ずる。 (24 碓井 瑠衣／1回) 地域生活ケアにかかわる理論、地域看護ケア提供者の専門性、およびその確立とこれを担保するための活動展開について国内外の知見から教授する。 (6 片山 典子／3回) 地域で生活する人に対するケースマネジメント能力および地域ケアシステムの運用・評価方法などの実践能力を高めるためのケア開発の実際について教授する。また地域で生活する人における精神機能や認知機能に障害を有する人を対象する重要な支援領域である精神看護学の立場から理論と方法論等について教授する。さらには精神看護分野のケア方法とその開発についての活動展開について国内外の知見から教授し、精神看護分野ケアにおける具体的方法と課題について論ずる。 (③ 小林 紀明／4回) 地域生活支援ケアに関する根拠に基づく実践や方法論および訪問看護の方法論について教授する。また地域生活支援ケアに関する国の政策課題となっているトピックスをとりあげ、特に国の動向と訪問看護活動への影響や方向性について論じる。 (⑥ 澤井 美奈子／2回) 地域社会で生活する人への看護を行うためのシステム構築、評価方法論、技術開発および評価と家族支援を含む生活支援のアプローチ法などの原理原則について論理的、実践的に教授する。地域社会で生活する人への国や自治体の政策形成のしくみ、自治体の政策立案や制度の運用・評価方法について教授し、保健師の施策化への関わり方など、システムの円滑な運営方法の実例を提示し、理解を深める。 (29 東村 志保／1回) 地域で生活する身体機能低下や障害のある者への生活支援ケアの理論と方法論等について教授する。さらに、身体機能障害を有するケースを紹介して、ケアの具体的方法について論ずる。 (6 片山 典子・ ③ 小林 紀明・ 15 本田 芳香／1回) ケースマネジメント能力・施策化への関わり方の具体的方法とその技術の開発方法についても論ずる。ヘルスプロモーション・健康生成論などの社会モデルの観点からも地域生活支援ケアとシステムの課題を考える。	オムニバム方式
専門科目	地域生活ケアシステム学演習	地域生活ケアに関する最新の研究や地域活動に関する討議などの演習によって、国内外の地域生活ケア及びシステムにかかわる研究の現状と課題について明らかにする。地域生活へのケアの方法、ケアシステム構築の検討に必要な研究方法についての演習を行う。研究手法の演習を行うことによって、教育者・研究者に求められる批判力、論理性、表現力の育成とともに、地域の課題の特定、介入方法の明確化、ケアの質の評価などを行う能力を育成する。 (共同／全30回) (6 片山 典子・ ③ 小林 紀明・ 15 本田 芳香・ 24 碓井 瑠衣・⑥ 澤井 美奈子・ 29 東村 志保／30回) 文献レビュー、研究課題の明確化、研究方法の検討	共同

専門科目	生涯発達ケアシステム学特論	生の誕生から死に向かうまでの人及びその家族のライフサイクルを通じて、人の発達とそのケア、健康および健康問題、性と生殖に関連する健康の諸問題に関する研究の検索を行い、人やその家族を対象とした健康支援や社会資源の活用と開発に必要な理論・実践方法について論ずる。また、グローバルな視点から超少子高齢化社会における健康を理論的に探究し、トピックスや研究成果を紹介し、特別研究における研究テーマに即した課題探求や研究計画作成に必要な基礎についても論じる。 (オムニバス形式／全15回) (21 ラウ 優紀子／5回) 人の成長発達に関する概念創出の背景とそのプロセスを教授する。また生涯を通じて関わる健康の構成要素について論じ、生涯発達ケアに関する社会の現状と課題、生涯発達ケアとシステムの必要性について教授する。成長発達の視点から健康問題やストレスを中心に検討し、新たな理論枠組み、支援の具体的方法の開発、成長発達を基盤とした人のライフサイクルと加齢現象、および健康問題について教授する。さらに次世代育成の連続性を考慮した生物学的アプローチによる効果的な健康支援のあり方について論ずる。 (4 牛田 貴子／3回) 健康機能障害を持つ者と家族の健康問題を家族エンパワーメントモデル、相互関係モデルによってホリスティックに捉え、家族看護の視点から論じる。また発達諸論や家族理論を用いながら、健康障害と家族の健康問題とその状況についてケースを取り上げ、家族の力を引き出すための具体的なケアについて論ずる。 (18 山崎 圭子／4回) 環境因子・個人因子との関連から生活支援の方法と生涯発達支援における現状を教授する。また生涯を通じた女性の健康について性周期に伴うストレスや超少子高齢化時代の子どもと親をめぐる現状から、社会資源としての女性保健活動の開発について論ずる。さらには多様性を視野に入れた思春期から更年期に至る母・子とその家族を対象とした健康支援やそれを支援する資源の活用と開発に必要な理論・実践方法、子どもと母親を地域で孤立させないための子育て世代包括支援体制の現状と課題について論じる。 (31 日下 桃子／2回) 誕生から乳幼児、思春期、周産期、更年期のリズム障害と健康などの生涯発達支援における課題を教授する。また発達理論を活用し、子どもと家族の健康問題とその状況について教授し、子どもと家族の力を引き出すための看護ケアについて論ずる。 (4 牛田 貴子・ 18 山崎 圭子・ 21 ラウ 優紀子・ 31 日下 桃子／1回) ライフサイクルおよび発達論・健康障害モデルの観点から、生涯発達ケアシステムの具体的支援の方法に関する課題を考える。	オムニバス方式
専門科目	生涯発達ケアシステム学演習	生の誕生から死に向かうまでの人及びその家族のライフサイクルを通じて、人の発達とそのケア、健康および健康問題、性と生殖に関連する健康の諸問題に関する研究の検索を行い、研究の課題を検討する演習を行う。また、生涯発達の視点から人の健康支援に関する高度な研究手法、研究計画について修得するとともに、教育者・研究者に求められる批判力、論理性、表現力の育成を行う。 (共同／全30回) (4 牛田 貴子・ 18 山崎 圭子・ 21 ラウ 優紀子・ 31 日下 桃子／30回) 文献レビュー、研究課題の明確化、研究方法の検討	共同

専門科目	地域生活支援学特論	地域在宅における高齢者、障害者の生活行動や社会的参加などの現状と課題をリハビリテーション医療の視点で分析する。また地域在宅高齢者及び障害者の生活支援あるいは高次脳機能障害者の生活支援の実践を多角的に学修する。 (オムニバス方式／全15回) (20 山田 拓実／5回) 介護保険下の老人保健施設などで利用者がより主体的な生活行動を獲得するADL指導などを、身体的機能や認知機能の低下を有する者を対象として、主に応用行動分析学の立場から理論と方法論等について教授する。 (5 大森 圭貢／4回) 高齢者および疾患者を中心に、ADLが障害された者に対する支援を、骨格筋力や関節可動域などの心身機能・身体構造、立ち上がりや歩行などの活動、そして参加との関連から捉え、理学療法による体系化した生活支援方法を教授する。 (11 鈴木 雄介／4回) 高次脳機能障害を有する人の退院後の復職支援などの社会的役割の獲得を踏まえた生活支援を中心に、その評価とアプローチ法などについて実践的理論的に解説し教授する。 (12 田島 明子／1回) 地域生活支援の現状と課題を介護保険制度やヘルスプロモーション・健康生成論などさまざまな観点から理解する。また、歴史的観点から作業療法学の系譜を知り、今後の作業療法の課題について考える。 (7 小林 和彦／1回) 介護保険下の老人保健施設などで利用者がより主体的な生活行動を獲得するADL指導などを、身体的機能や認知機能の低下を有する者を対象として、主に応用行動分析学の立場から理論と方法論等について教授する。	オムニバス方式
専門科目	地域生活支援学演習	地域生活支援学特論で修得した理論を軸として、地域在宅における高齢者、障害者の生活行動や社会的参加などの具体的な事象や事例を通じて、実践的な考察を深め、地域における高齢者、障害者生活支援に関する問題点の具体化と改善方法に関して探求していく。 (オムニバス方式／全30回) (20 山田 拓実／10回) 介護保険下の老人保健施設などで利用者がより主体的な生活行動を獲得するADL指導などを、身体的機能や認知機能の低下を有する者を対象として、主に応用行動分析学の立場から理論と方法論等について教授する。 (5 大森 圭貢／8回) 高齢者および疾患者を中心に、ADLが障害された者に対する生活支援として、骨格筋力や関節可動域などの心身機能・身体構造、立ち上がりや歩行などの活動、そして参加への支援を行った文献をレビューし、支援の実践と課題を考える。 (11 鈴木 雄介／8回) 高次脳機能障害を有する人の退院後の復職支援などの社会的役割の獲得を踏まえた生活支援を中心に、その評価とアプローチ法などについて理論と実践方法について演習的に教授する。 (12 田島 明子／2回) 地域生活支援の現状と課題を介護保険制度やヘルスプロモーション・健康生成論などさまざまな観点から理解する。また、歴史的観点から作業療法学の系譜を知り、今後の作業療法の課題について考える。 (7 小林 和彦／2回) 介護保険下の老人保健施設などで利用者がより主体的な生活行動を獲得するADL指導などを、身体的機能や認知機能の低下を有する者を対象として、主に応用行動分析学の立場から理論と方法論等について演習的に教授する。	オムニバス方式

専門科目	身体機能支援医療学特論	身体機能の回復を図る支援医療の視点から、中枢神経疾患や心血管疾患、呼吸器疾患、骨関節疾患など身体障害系疾患および高齢者やスポーツ障害者等を科学的に評価し、身体機能を回復させるための治療原理・実践的な方法論に関して論じる。また、身体の構造と機能及び身体機能の解析に関する理論の展開も行う。 (オムニバス方式・共同 (一部) / 全15回) (3 田邊 浩文・ 30 増田 雄亮 / 5回) 脳血管疾患などの中枢神経疾患を対象に、科学的な評価方法、身体機能を回復させるための治療原理・実践的な方法論を考える。 (20 山田 拓実 / 4回) 虚弱高齢者における運動機能障害を理解し、理学療法評価と介入方法、根拠に基づく理学療法アプローチ、これらの科学的実践的な展開を行う。 (17 森尾 裕志 / 3回) 心疾患や内部障害を合併する高齢者および虚弱高齢者の生活動作を理解し、アプローチ方法や研究方法の実践的な展開を行う。 (10 柴田 昌和 / 1回) 運動障害を基本的な筋・骨格の構造および神経系の解析を形態学的な視点で分析を加え、筋・神経系の障害発生を解剖学的なモデルで理論的に分析して構造や機能の理解を深め、臨床症状と関連づけ理論的に考察できる力を修得する。 (⑤ 櫻井 好美 / 2回) 日常生活動作の運動学的特徴と運動力学的要求、運動力学的評価のための機器設定と適切な三次元動作測定方法、身体運動の力学的データの解釈と臨床応用に向けたデータの活用方法の理解を深め、臨床症状と関連づけ理論的に考察できる力を修得する。身体機能の回復を図る支援医療の視点から、中枢神経疾患や心血管疾患、骨関節疾患患者など身体障害系疾患および高齢者やスポーツ障害患者等を科学的に評価し、身体機能を回復させるための治療原理・実践的な方法論に関して論じる。	オムニバス方式・共同 (一部)
専門科目	身体機能支援医療学演習	身体機能支援医療学特論で修得した理論を軸として、中枢神経疾患患者や心血管疾患、骨関節疾患患者など身体障害系疾患および高齢者やスポーツ障害患者等の具体的な事象や事例を通じて、実践的な考察を深め、運動機能回復に関する問題点の具体化と改善方法に関して探求していく。 (オムニバス方式・共同 (一部) / 30回) (3 田邊 浩文・ 30 増田 雄亮 / 10回) 中枢神経疾患の身体機能障害に関する文献をレビューし、分析の方法や有効性の高いアプローチ法について討議を行う。また、日常生活機能を包括して捉えた介入の原則について、事例検討や調査研究・介入研究・レビュー等を通じて、支援の理論と実践の体系化を演習する。 (20 山田 拓実 / 8回) 虚弱高齢者の運動機能回復に関する分析方法についての論文を発表し、効果的な評価・分析実践方法について討議を行う。 (17 森尾 裕志 / 6回) 心疾患を中心とした循環器疾患のリハビリテーションに関して、循環機能と身体運動機能、および日常生活機能を包括して捉えた介入の原則について、事例検討や調査研究・介入研究・レビュー等を通じて、支援の理論と実践の体系化を演習する。 (10 柴田 昌和 / 2回) 骨・筋・神経の運動器において文献レビュー等のデータを解析し、各自が構造・機能の面から障害の状態や治療および効果について実践的な考察、まとめ、発表が出来る演習を教授する。 (⑤ 櫻井 好美 / 4回) 三次元動作計測に関する文献レビューの指導を行い、さらに三次元動作計測及び床反力測定器を用いた力学的分析、慣性データの解析、関節モーメントの解析を演習して、運動機能と動作解析との体系化を教授する。	オムニバス方式・共同 (一部)

研究科目	看護学特別研究	(② 川本 利恵子) 看護学領域から研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行う能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。 (①石川 眞里子) 生涯発達ケア看護領域から病院施設内や施設外における障害を持った小児に対する小児看護に関する研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行う能力を修得させる看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。 (4 牛田 貴子・ 21 ラウ 優紀子) 看護学領域から研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行う能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。 (6 片山 典子) 精神保健および精神看護学領域、特に地域で生活する精神障害者、早期精神病、アディクションなどから研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行う能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。 (15 本田 芳香) 看護学教育又は看護教育学に関連する興味・関心より、国内外の文献検討を幅広く行い、その累積した学修成果を活用して研究課題の焦点化をはかる。必要な予備的研究および試験的研究を含む研究計画書を作成する。研究計画立案、研究倫理の承認、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察、発表など一連の研究過程を通し、看護学研究の成果を産出・発信する。また研究者として自立して研究活動を行い、その専門性を探求するために必要な研究能力と看護専門 職としての研究的態度を修得する。	共同 (一部)
------	---------	---	---------

研究科目	看護学特別研究	(③ 小林 紀明・16 村嶋 幸代・29 東村 志保) 地域生活ケア看護領域から地域の高齢者への在宅看護や公衆衛生看護に関する研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。 研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。 (18 山崎 圭子) ウイメンズヘルス看護領域（社会環境やライフサイクルの変化に伴う女性特有の健康課題など）、助産学および母性看護領域（妊娠・出産・育児などにかかわるリプロダクティブヘルスの問題など）から研究テーマを選び、科学的な根拠に基づく看護ケアの開発や看護ケアを効果的に提供するためのケアシステムの開発等に寄与する研究を行う。 博士論文の作成においては、研究テーマに関する国内外の文献検討を踏まえて研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。研究計画に基づくデータ収集・分析、論文作成、発表までの一連の研究過程を修得する。特に、研究計画、データ収集方法、倫理審査受審への対応、データー分析、考察および結論への論理的な組み立てについては、指導教員および副指導教員からの指導を受けながら進める。 (④ 山勢 善江) 看護学領域から救急・クリティカルケアに関する研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。 研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。 (23 渡部 節子・24 碓井 瑠衣) 看護学領域から研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。 研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。 (⑥ 澤井 美奈子) 地域生活ケアシステム領域から公衆衛生看護の分野の研究テーマを選び、そのテーマに関する問題点を抽出し、文献検索等により問題解決のための研究計画を立案する。立案した研究計画の倫理審査を受審する。倫理審査承認後、研究計画に基づき研究を実施し、得られた結果およびその考察について、学位博士論文としてまとめる。 研究計画の立案、倫理問題への対応、データ収集、結果の解析およびその解釈と考察などの一連の過程において、論文及び特別研究の遂行過程にはポートフォリオを活用し、自らが独立して研究を行いうる能力を修得させる主たる指導教員の他に複数の副指導教員を配置し、看護保健学領域の幅広い視点からの指導を行う。作成された博士論文およびポートフォリオを活用し、総合的に評価する。	
------	---------	--	--

研究科目	リハビリテーション学特別研究	(3 田邊 浩文 ・ 9 坂上 昇) 本課程過程で履修した特論や演習を基盤に、中枢神経疾患等の身体麻痺に伴う課題を明確にするとともに、当該領域の課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を修得しリハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。 (12 田島 明子 ・ 20 山田 拓実) 本課程で履修した特論や演習を基盤に、高齢者の運動機能回復 運動器・呼吸器疾患などの身体機能回復に伴う課題を明確にするとともに、当該領域の課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を修得しリハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。 (5 大森 圭貢 ・ 7 小林 和彦) 本課程で履修した特論や演習を基盤に、地域在住の高齢者および疾患者が有する心身機能・身体構造、ADL、そして生活行動と生活支援・社会的参加等への支援の課題を明確にして、当該領域の課題を明らかにする。それとともに、その課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い、博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて、大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を習得し、リハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。 (11 鈴木 雄介 ・ 14 鶴見 隆正) 本課程で履修した特論や演習を基盤に、身体機能障害者の就労支援や地域生活支援に伴う課題を明確にするとともに、当該領域の課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を修得しリハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。 (17 森尾 裕志 ・ 10 柴田 昌和) 本課程で履修した特論や演習を基盤に、心血管疾患・運動機能回復に伴う課題を明確にするとともに、当該領域の課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を修得しリハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。 (30 増田 雄亮 ・ ⑤ 櫻井 好美) 本課程で履修した特論や演習を基盤に、脳血管疾患患者の機能回復や生活支援に伴う課題を明確にするとともに、当該領域の課題の解決に向けて課題に適した研究方法を探索して、効果的且つ新しい科学的なリハビリテーション介入方法論の確立に貢献できる基礎研究や臨床研究指導を行い博士論文を完成させる。また一連の研究プロセスを通じて大学教員、研究者および高度専門職業人としての基礎的能力を修得しリハビリテーション学の発展のために高度化を目指す。	
------	----------------	---	--